

令和3年度 県立学校プロジェクト学習推進事業  
**実施報告書【課題実践校用】**

学校番号	44
学校名	富山県立富山視覚総合支援学校

学校の現状と課題	本校専攻科保健理療科・理療科生は、本校を卒業後、あん摩・マッサージ・指圧師、はり師・きゆう師として理療の現場ですぐに活躍できるよう、臨床能力の向上が課題となっている。 学校においても臨床実習として、外来患者への施術を行っているが、患者のほとんどが高齢者である。	
テーマ(特色)	臨床能力の向上	
設定した「テーマ」の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業で様々な年齢層を対象とした施術を1回行った。</li> <li>・介護現場で働く理学療法士を講師とした講演会・実技講習を1回行った。</li> </ul>	
実施内容(具体的に記入する)	<p>2つの地元企業から施術依頼があり、年間6回程度の訪問を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえた結果、1事業所で1回の実施となった。</p> <p>JR富山駅近くにあるH社内の健康管理センターへ理療科生徒2名と教職員が赴き、一室を借りて、社員を対象に3時間程度の施術を行った。借りた部屋に備え付けのベッド1台のほかに、購入した簡易ベッドを1台並べて使用し、保健理療科生の2名が、患者一人当たり20分の施術を3名ずつ担当した。施術を受けた社員は年齢が幅広く、主訴も多様で、生徒は直前までデスクワークを行っていた社員の身体を診察・施術した。</p> <p>また、視覚障害者として介護現場で活躍する理学療法士を講師として招き、2時間程度の講演会と実技講習を行った。</p> <p>介護現場での勤務の現状や利用者に関する情報収集・介護技法の工夫、卒業後の研鑽の仕方、視覚障害者として働くポイントなど介護現場でしか得られない知識や技術を学んだ。</p>	
取組による成果(プロジェクト学習推進の観点から)	<p>○生徒にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な年齢層や症状の患者を連続して複数名を診察・施術したり、理療の枠を超えて、違う分野からのアプローチに触れたりすることで、接遇やコミュニケーションなど校内ではできない多様な社会経験ができた。</li> <li>・学校でも外来の患者を対象として、習得した知識・技能を活用して臨床実習を行っているが、直前までデスクワークしていた社員という校内とは異質な患者を初診で診察・施術することから探究的な学びができた。</li> <li>・地元企業の社員の症状を改善できたことで、「外から受け入れられる」経験をすることができた。</li> <li>・「とても緊張した」「自分の見立てが正しいのか不安になった」「楽しくて仕方がない」と感想を述べており、自分の臨床能力を客観的に振り返る良い機会になった。</li> </ul> <p>○教員にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同様に新たな刺激を受ける機会となり、これまでの自分の指導について生徒の臨床能力の向上の観点から振り返ることができた。また、社員との交流の中で、理療師としての自分を見つめ直す機会となった。</li> <li>・生徒を指導する立場から、目の前の患者の症状の改善に向けて、共に伴走・支援する立場に変化した。</li> <li>・地元企業に本校の教育や理療に関する啓発を行うことができた。</li> </ul>	
対象者(学年・人数など)	専攻科保健理療科2年2名、専攻科理療科2年1名・3年1名(実際は、保健理療科の2名だけの参加となった)	
実施実績	4月	
	5月	
	6月	
	7月	
	8月	
	9月	
	10月	
	11月	
	12月	9日(木)地元企業での施術(H社 健康管理センター)、16日(木)外部講師による講演会・実技講習
	1月	
	2月	
	3月	